

二〇二〇年度 自己推薦入試(前期)

中国文学科	受験番号	氏名
-------	------	----

一 次の文章を読み、後の問(問1～問4)に答えなさい。なお、設問の都合上、返り点・送り仮名を省略した部分があります。

猛孫陽問楊子曰、「有レ人ニ於此、貴レ生、愛レ身、以求レ不死。可乎。」曰、「理無レ不死。」以求レ久生、可乎。」曰、「理無レ久生。」  
 非貴之所能存。身非愛之所能厚。且久生奚為。  
 五情好惡、古猶今也。四体安危、古猶今也。世事苦樂、古猶今也。變易治乱、古猶今也。既聞之矣。既見之矣。既更之矣。百年猶厭其多。況久生之苦也矣。」

(『列子』楊朱篇)

(注) ○猛孫陽—人名。楊子の弟子。 ○楊子—戦国時代の思想家。楊朱。

○五情—耳、目、鼻、口、触觉の五つの感覚のこと。

○四体—身体のこと。 ○更—経験すること。

問1 傍線部①「好」、傍線部②「易」と同じ意味で用いられている熟語はどれか。次の各群のA～オの中から選んで記号で答えなさい。

- ① 好 A 愛好 I 好評 U 好況 E 好調 O 良好
- ② 易 A 簡易 I 交易 U 容易 E 難易 O 平易

問2 傍線部③「理無不死」とはどういう意味か。二十字以内で答えなさい。

問3 傍線部④「生非貴之所能存」の書き下し文を全部ひらがなで書きなさい。

問4 傍線部⑤「久生奚為」と、楊子が言っているのはなぜか。その理由を、三十文字以内で書きなさい。

二

次の文章を読み、後の問(問1～問6)に答えなさい。設問の都合上、返り点・送り仮名を省略した部分と、文字を隠した部分があります。

靖郭君<sup>せいきやく</sup> 将<sup>まさ</sup>城<sup>じやう</sup>薛<sup>せつ</sup>、客多<sup>きやくた</sup>以<sup>もつ</sup>諫<sup>けん</sup>者<sup>しや</sup>。靖郭君<sup>せいきやく</sup> 謂<sup>いひ</sup>謁<sup>てつ</sup>者<sup>しや</sup>曰<sup>い</sup>、「母<sup>①</sup>為<sup>な</sup>客<sup>きやく</sup>通<sup>つう</sup>。」<sup>スルヲ</sup>齐人<sup>しやじん</sup>有<sup>あ</sup>二<sup>に</sup>請<sup>しん</sup>見<sup>けん</sup>者<sup>しや</sup>曰<sup>い</sup>、「臣<sup>A</sup>請<sup>しん</sup>三言<sup>さんげん</sup>而已<sup>のみ</sup>、過<sup>アヤ</sup>三言<sup>さんげん</sup>、臣<sup>しん</sup>請<sup>しん</sup>烹<sup>しやう</sup>。」<sup>フレント</sup>靖郭君<sup>せいきやく</sup> 因<sup>よ</sup>見<sup>けん</sup>之<sup>を</sup>。客<sup>きやく</sup>趨<sup>きやく</sup>進<sup>しん</sup>曰<sup>い</sup>、「海<sup>C</sup>大魚<sup>たいぎよ</sup>。」<sup>ト</sup>因<sup>よ</sup>反走<sup>はんそう</sup>。靖郭君<sup>せいきやく</sup> 曰<sup>い</sup>、「請<sup>しん</sup>聞<sup>もん</sup>其<sup>その</sup>説<sup>せつ</sup>。」<sup>カント</sup>客<sup>きやく</sup> 曰<sup>い</sup>、「臣<sup>しん</sup>不<sup>ふ</sup>敢<sup>たん</sup>以<sup>もつ</sup>死<sup>し</sup>為<sup>な</sup>戲<sup>ぎ</sup>。」<sup>ヘト</sup>靖郭君<sup>せいきやく</sup> 曰<sup>い</sup>、「願<sup>B</sup>為<sup>な</sup>寡<sup>くわ</sup>人<sup>じん</sup>言<sup>げん</sup>之<sup>を</sup>。」<sup>ヘテ</sup>答<sup>こたへ</sup>曰<sup>い</sup>、「君<sup>きん</sup>聞<sup>もん</sup>大魚<sup>たいぎよ</sup>乎<sup>や</sup>。網<sup>もう</sup>不<sup>ふ</sup>能<sup>ん</sup>止<sup>ど</sup>繳<sup>せう</sup>、不<sup>ふ</sup>能<sup>ん</sup>絓<sup>か</sup>也<sup>や</sup>、<sup>カクル</sup>蕩<sup>たう</sup>而<sup>して</sup>失<sup>は</sup>水<sup>すい</sup>、<sup>オビリナ</sup>螻<sup>ろう</sup>蟻<sup>ぎ</sup>得<sup>え</sup>意<sup>い</sup>焉<sup>や</sup>。今<sup>いま</sup>夫<sup>そ</sup>齐<sup>しや</sup>亦<sup>また</sup>君<sup>きん</sup>之<sup>の</sup>海<sup>かい</sup>也<sup>や</sup>、君<sup>きん</sup>長<sup>なが</sup>有<sup>あ</sup>齐<sup>しや</sup>、<sup>ナシバ</sup>奚<sup>な</sup>以<sup>もつ</sup>薛<sup>せつ</sup>為<sup>な</sup>君<sup>きん</sup>失<sup>は</sup>齐<sup>しや</sup>、<sup>ヲ</sup>雖<sup>すい</sup>隆<sup>ろう</sup>薛<sup>せつ</sup>城<sup>じやう</sup>至<sup>いた</sup>於<sup>に</sup>天<sup>てん</sup>、<sup>ト</sup>猶<sup>なほ</sup>無<sup>な</sup>益<sup>えき</sup>也<sup>や</sup>。」<sup>ハク</sup>靖郭君<sup>せいきやく</sup> 曰<sup>い</sup>、「善<sup>ぜん</sup>。」<sup>シト</sup>乃<sup>すなは</sup>輟<sup>や</sup>不<sup>ふ</sup>城<sup>じやう</sup>薛<sup>せつ</sup>。」<sup>キツガ</sup>

〔韓非子〕説林下)

(注) ○靖郭君—田嬰のこと。齐の公子で孟嘗君の父。 ○薛—地名。今の山東省にある。

○繳—飛んでいる鳥を捕らえるための仕掛け。 ○絓—ひっつける。

○蕩—跳ね上がる。 ○螻蟻—おけらやアリ。

問一 傍線①・②・③の読みを、送り仮名まで含めて全てひらがなで書きなさい。なお、その際、歴史的仮名遣いを使用すること。

- ① 母
- ② 奚
- ③ 乃

問二 傍線部Aの訳としてもっとも適当なものをひとつ選びなさい。

- ア 私は三言しか話すことはできません。それ以上話せとおおせならば、どうぞ釜茹での刑にしてください。
- イ 私に三言しか話させてくださらず、それ以上になつたら釜茹での刑にするとおおせですか。
- ウ 私に三言だけ話させてください。もし三言以上になつてしまつたら、どうぞ釜茹での刑にしてください。
- エ 私と三言だけ話をしてください。もし三言以上になつてしまつたら、どうぞ釜茹での刑にしてください。

問三 ①傍線部Bの「為」の読み方としてもっとも適当なものをひとつ選びなさい。

②また、「願為寡人言之」を現代語訳しなさい。

① 「為」

ア なす

イ ために

ウ おさむ

エ なる

② 現代語訳

「願為寡人言之」

問四 傍線部Cについて、客の例え話で①「海」②「大魚」に当たるものはなにか。正しいものをそれぞれひとつ選びなさい。

① 「海」

ア 薛

イ 斉

ウ 水

エ 天

② 「大魚」

ア 靖郭君

イ 斉人

ウ 客

エ 臣

問五 傍線部Dは「君斉を失はば、薛城を隆くして天に至ると雖も、猶ほ益無からん」と書き下します。書き下し文に合うように、適切な返り点を付けなさい。

君 失 斉、雖 隆 薛 城 至 於 天、猶 無 益 也。

問六 以下のア～エの中から、本文の内容に合わないものをひとつ選びなさい。

ア 靖郭君に目通りを願った客は、小走りで進み出て、「海大魚」とだけ言うと、振り返って走り去ろうとした。

イ 靖郭君が薛に城を築こうとしたところ諫めるものが多かった。靖郭君は取り次ぎ役の者に、それらを取り次がないよう命じた。

ウ 靖郭君は客の一人に薛の築城について諫められて納得し、薛ではなく別の土地に城を築くこととした。

エ 客は、靖郭君に対して、斉の国を長く保つことができなければ薛などに城を築く必要はないと言って築城を諫めた。

